宗教新聞

発行所 宗教新聞社
東京都新宿区新宿5-13-2
〒160-0022
電話 03-3353-2940(代)
FAX 03-5363-5182
郵便振替口座 00130-9-22704
URL http://www.religion-news.net
©宗教新聞社 2022

購読料（税込）
1部 500円
半年 3,000円（〒共）
年間 6,000円（〒共）

〈社是〉
一、精神革命の旗手
一、宗教連合の具現
一、地上天国の建設

虎ゆかりの社寺へ初詣

朝護孫子寺・四天王寺・大江神社

〝最強運勢〟の寅年に

今年は36年に一度の「五黄（ごおう）の寅」。九星気学において最強運勢の「五黄土星」と、十二支の中で最も運勢が強い「寅年」が重なった年である。寅年にちなみ、世界一大きな虎の張り子「大虎」がある奈良・生駒山の信貴山朝護孫子寺（しぎさんちょうごそんじ）と四天王寺、大江神社に初詣した。

信貴山朝護孫子寺の大虎

四天王寺

大阪と奈良の県境にある生駒山。『日本書紀』では東征の神武天皇が山麓で、長髄彦（ながすねひこ）と激戦を繰り広げている。山の北端には役行者が開いた修験道場とされる宝山寺が、「生駒の聖天さん」として大阪商人らに篤く信仰されている。真言律宗の大本山で、空海による神仏習合の典型である。

生駒山の南端にあるのが朝護孫子寺で、信貴山真言宗の総本山。本尊は仏教を守護する武神の毘沙門天で、「信貴山の毘沙門さん」として人気がある。山門をくぐると大きな石の鳥居があり、その先に家族連れが長い列を作っていたのは、本堂を見上げる大虎の前で記念撮影するため。境内には虎の像や絵があふれていた。

伝承によると、仏教受容をめぐる蘇我氏と物部氏の戦の折、仏教を奉じる蘇我氏の家で育った少年時代の聖徳太子が、この山で戦勝祈願をしたところ、毘沙門天が「寅年、寅の日、寅の刻」に現れ必勝の秘法を授けたという。戦に勝った聖徳太子は自ら毘沙門天を像に刻み、伽藍を建てて祀り、同山を信貴山として「信貴山」と名付けたという。参道脇には少年太子の騎馬像が銀色に輝いていた。

醍醐天皇が病に伏した折、同寺の命蓮（みょうれん）上人が毘沙門天に祈願したところ、たちまち全快。以来、朝廟安穏・守護国土・子孫長久の祈願所として「朝護孫子寺」と呼ばれるようになったという。

信貴山を下り、JR大和路線で王寺から天王寺に向かうと、線路横を飛鳥と難波を結ぶ大和川が走っていた。天王寺駅から歩いて12分、聖徳太子の創建とされる和宗総本山の四天王寺がある。

上記と類似の説話で、物部氏との戦で蘇我氏が劣勢になった時、14歳の聖徳太子は、近くの木で四天王の像を作り、「この戦に勝利したら、四天王を安置する寺を建てる」と誓願。そのかいあって味方の矢が物部守屋に命中して蘇我氏が勝利。6年後の593年、太子は四天王寺の建立を始めたという。四天王とは、須弥山で仏法僧を守護する四神、東方の持国天、南方の増長天、西方の広目天、北方の多聞天（毘沙門天）である。

四天王寺から大阪城までは上町（うえまち）台地の西端にあり、西方浄土を思わせる西日を望むことから「夕陽丘」の地名がある。古代、近くまで海が迫り、船で中国や朝鮮から大和を訪ねた人たちは、海辺に立つ壮大な伽藍を目にしていた。政治家でもある太子の外交センスである。

四天王寺の西側、上町台地の崖の上に、狛虎の大江神社がある。四天王寺の鎮守社である四天王寺七宮の一つで、これも聖徳太子の創建。四天王寺の北西・乾（いぬい）の方角にあることから「乾の社」と呼ばれていたが、幕末、神仏分離の高まりで大江岸にちなみ大江神社と改められた。

東隣には、愛染明王を祀る勝鬘院愛染堂があり、太子が勝鬘経を推古天皇に講じた所だという。街を歩くと太子講を掲げた会社や日本最古の会社・金剛組もあり、奈良と大阪には太子信仰があふれていた。

大江神社の狛虎、かつては毘沙門堂があった

社説

最澄と徳一の「諍論」と日本仏教

仏性論をめぐり

昨年から今年にかけて、伝教大師1200年大遠忌記念特別展「最澄と天台宗のすべて」が東京・九州・京都で開かれ、改めて最澄が開いた天台宗・比叡山延暦寺への関心が高まっている。比叡山は「日本仏教の母山」と呼ばれるように、鎌倉仏教の宗祖たちがここで学び、山を下りて、大衆に仏教を広めた。

最澄の生涯で興味深いのは法相宗の徳一との間で繰り広げた「三一権実諍論」である。

徳一の事績は、福島県磐梯町にある国指定史跡慧日寺跡にその一端を見ることができる。奈良を離れた徳一は東北に布教し、平安時代の初め「仏都会津」と呼ばれるほどの興隆を当地にもたらした。その足跡は、やはり東北に教線を広げた最澄と似ている。

徳一の足跡は、鎌倉幕府打倒の計画が漏れ、後醍醐天皇が三種の神器を保持して挙兵した笠置山にもある。京都の南端、奈良との県境にある笠置山は修験道の行場で、その拠点が笠置寺。徳一は、権力に近づき堕落した興福寺を離れ、ここで修行し、その後、東北を目指したのである。その足跡は、東大寺で具足戒を受けながら、19歳で比叡山に籠った最澄と、これも似ている。

最澄が唐への留学を思い立ったのは、日本に招来された大量の仏典を研究する中で、南都六宗の背景にある天台教義の真髄を学ぶ必要を感じたからとされるが、もっと切実な問題として、天皇が何度も和解の詔を出すほど深刻な三論宗と法相宗の対立があったという。

三論宗は龍樹の『中論』、法相宗は無著・世親兄弟の唯識思想を旨とし、両学派の論争は「空有（くうう）の論争」とよばれ、中国、インドにまでさかのぼる、仏教の本質にかかわっていた。中心は仏性論争であり、三論宗が「一切衆生悉有仏性」説なのに対して、法相宗は人間には生まれながらの違いがあり、成仏できない人もいるとしたのである。

これを解決するには、隋の智顗が開いた天台宗を学び、招来するしかないと考えた最澄は、親交のあった和気氏を通じ、桓武天皇に唐への留学を願い出たとされる。天台宗は天台法華宗とも呼ばれるように、釈迦の最後の教えとされる法華経に基づく大乗仏教の宗派である。桓武天皇に近い和気氏から最澄に働きかけたとの説もあり、切迫した事態が背景にあったことがうかがえる。仏教立国を目指した日本の本質的な危機と言えよう。

今から考えると、両論の違いは釈迦の教えが多岐にわたり、目の前にいる悩める人に語った言葉が基になっているからである。死ぬしかないというほどの絶望的な人には、浄土教のように、死後の救いを語ったのであろう。自分の思想より、相手の心の救いを優先していたのである。多様な人間を対象にしたので、教えも多様にならざるを得ない。さらに、それを聞いた弟子たちの解釈も多様であった。

日本仏教にとっての「諍論」の意味は、論争そのものにあったと言えよう。論争により概念が明確になり、言葉が研ぎ澄まされ、思想が深まるからである。いわゆる論理学も仏教に含まれてもたらされたのであり、論争を繰り返しながら、仏教は日本的風土に土着していったのである。

徳一と最澄、さらに空海の足跡を比較し「諍論」よりも重要に思われるのは、山での修行である。最澄が12年間、比叡山に籠ったように、空海も大学を離れ、山で修行に励んでいる。彼らだけでなく、当時の学僧にとって山での学びは当たり前のことだったという。

山は古来、日本人が信仰を育んできた場所であり、死者を葬ってきた先祖たちの住まいであった。それが、当時の人たちにとって神々と共にある空間だったのである。

コロナとの共生

コロナ禍は第六波がかつてない拡大を示し、いまだ収束の兆しが見えない。生物に寄生して繁殖するウイルスには、生物のような「死」はない。死が生まれたのは、生物が有性生殖をするようになってからで、進化の結果というのが生物学の見解である。この生物学の死生観は、自然に帰るという日本的仏教の死生観に通じている。

その意味で、コロナ禍は、自然との付き合い方の再考を、私たちに迫っているのではないか。自然から生まれたから、自然に帰るという、ごく自然な死生観を共有することが、コロナとの共生をもたらすのかもしれない。

三十三間堂で「通し矢」

晴れ着の新成人が平和願う

京都

1月16日早朝、京都市東山区の三十三間堂（妙法院蓮華王院本堂）で恒例の「通し矢」が催された。試技に先立って大会名誉会長の杉谷義純妙法院門主から、世界平和と本大会参加者の健勝を祈念する加持が授けられた。

振り袖、袴すがたの新成人たちは6人ずつ横一列に並び、的に向かって弓弦を引き絞り、わずかに仰角を付けて空に向けて射るように狙いを定める。放たれた矢は底冷えの京都の冷気を引き裂いて、次々に的に向かった。その距離60メートル。緩い放物線を描いて的に刺さる音が、三十三間堂を背景にした射場に心地よく鳴り響いた。

射手はそれぞれ2本の矢を射る。一本は自分の願いを、もう一本は他の人の幸せを願いながら弓を引くと良いとされる。三十三間堂は平清盛の支援により後白河上皇が創建、通し矢は、平安後期の保元年間（1156～59年）に始まり、江戸時代には武士が軒下で夜通し射て、通すことができた矢の数を競ったという。

現在では、妙法院と京都府弓道連盟が「三十三間堂大的（おおまと）全国大会」として成人の日に合わせて開く。昨年はコロナ禍のため中止、今年は無観客での72回目となった。

晴れ着の新成人（女性）の一人は「大学に入ってから厳しい体育会系の弓道部に入ったので、早く試合に出られるよう上達したいと願って弓を引きました」と語った。

的に狙いを定める晴れ着の新成人たち＝1月16日、京都・東山区の三十三間堂

灯

「主はこう言われる。呪われよ、人間に信頼し、肉なる者を頼みとし／その心が主を離れ去っている人は。彼は荒れ地の裸の木。恵みの雨を見ることなく／人の住めない不毛の地／炎暑の荒れ野を住まいとする。

祝福されよ、主に信頼する人は。主がその人のよりどころとなられる。彼は水のほとりに植えられた木。水路のほとりに根を張り／暑さが襲うのを見ることなく／その葉は青々としている。干ばつの年にも憂いがなく／実を結ぶことをやめない。」（エレミヤ17：5―8）

古のイスラエル王国は、繁栄の後に南北に分裂し、北イスラエルが隣国に滅ぼされ、およそ200年後には、南ユダ国も滅亡した。不幸にも、彼らは、国を失っただけでなく、支配者の国へと引き行かれ、苦渋の生活を強いられた。信仰の自由を奪われたのは、最も悲惨なことだった。

このような結末を迎える前に、神は預言者を遣わし、その国のゆくべき方向を示していた。預言者の叫びは「神意に帰れ」である。彼らは、後に、いくら策を弄しても、神意にかなわなければ決して解決しないことを悟ることになる。（I）

天地

正月早々、1月8日から一週間、腸閉塞で入院した▼小腸や大腸が癒着して詰まってしまう病気で、腹部手術を受けた人によく発症するとのこと。私は12年前に胃がんの開腹手術を受け、胃の三分の二を切除し、小腸につなぐ手術をしていたので、その後遺症だろうとの診断。確かに胃に近い小腸が癒着していた。多くは術後間もなく発症するが、まれに10年以上経っても起こるという▼重篤の場合は内視鏡か開腹手術になるのだが、幸い、絶食と点滴、内服薬で3日後にガスと便が出るようになり、重湯から始めて7分粥になった7日目に退院できた▼突然、暇になったので、先延ばしにしていた源氏物語をスマホで読むことにした。多くの現代語訳がある中で選んだのは林望の『謹訳源氏物語』。林さんには、源氏を初めて英訳し、世界で評価されるきっかけをつくったアーサー・ウェイリーのようなイギリス的な雰囲気があったから▼5日かけ最後まで読んで分かったのは、源氏物語は単なる恋愛小説ではなく、光源氏の死後、彼の孫の代まで続く人生の物語だということ。理想の妻である紫の上との関係も微妙に変わるなど、人の心の変化がとても詳しく描かれている▼藤原道長の娘・中宮彰子の家庭教師に採用された紫式部が、それまでのいろいろな物語を参考にしながら、人生訓として書いたのが源氏物語で、縄文時代からの口承文学の集約とも言えよう▼妻との心の変化や息子、孫たちの関係を思いながら、源氏は高齢になって読むのがいいと思った次第。

宗教新聞社
本紙定期購読のお申し込みは
■ご希望購読期間 ■氏名 ■郵便番号 ■住所
■連絡先電話番号 ■メールアドレス（お持ちの場合）を明記の上、宗教新聞社宛、はがき、FAXまたはEメールで左記へお申し込みください。
〒一六〇―〇〇二二
東京都新宿区新宿5―13―2―4F
電話03（3353）2940
FAX03（5363）5182
e-mail:religion@sage.ocn.ne.jp
http://www.religion-news.net
※購読料 年間6000円（税、郵送料を含む）

縄文のパワーフィールドへ
神道よ！今こそ《古来の本物の道》に戻るのだ！
奈良泰秀
エハン・デラヴィ 著
本物のシャーマニズムを日本人が忘れている。神道の潜在力を思い出し、世界に伝えていこう。ケルト民族末裔の意識研究家が、神道のエッセンスを聞き出す。チャネラー、ヒーラー、コンタクティを超える、宇宙と直接つながる知恵は、ここ日本の神道にあり！
四六上製1785円(税込)
株式会社ヒカルランド
〒162-0821 東京都新宿区津久戸町3-11
電話:03-6265-0852 FAX:03-6265-0853
http://www.hikaruland.co.jp

日本宗教の闇
室生 忠著 四六判・520頁 定価：本体2,000円＋税
拉致監禁による強制棄教との戦い
信教の自由が保障された今の日本で、強制棄教を目的に拉致監禁が行われている。職業的強制改宗屋が家族を巻き込み、信者を拉致し、部屋に監禁して、脅迫的説得により棄教を迫る。特に世界平和統一家庭連合（統一教会）やエホバの証人の信者に被害者が多く、中には12年以上の監禁された人もいる。驚くべき宗教迫害のリポート。
アートヴィレッジ
受注センター
〒657-0846 神戸市灘区岩屋北町3-3-18・4F
TEL078(882)9305 FAX078(801)0006

日本よ、蘇れ
日本神話の知恵
ゆがんだ歴史観、家庭の崩壊、教育の危機…。いま日本は大きな危機に瀕しています。この現状を打破するカギは、実は「日本神話＝古事記・神代一」にあるのです。日本神話に満ちあふれる、愛と生命と知恵に立ち返ってこそ、日本の未来は拓けます。あなたも著者といっしょに、「神話の教え」をひもといてみませんか？
出雲井晶 著
●定価1000円（税込み）
●四六並製 232ページ
●発行・産経新聞社／発売・扶桑社
お問合せ先／扶桑社 販売企画部
〒105-8070 東京都港区海岸1-15-1
TEL03-5403-8859
購入申込み FAX:03-3578-3075

『先代旧事本紀』の神髄を極めた著者が語る。足で調べた大和建国の謎。
日本国始め 饒速日大神の東遷
大野七三 著
須佐之男尊の出雲国創建後、饒速日尊が32従者と25軍団を従え、九州から大和に東遷して纏向の地に大和国を建国、その時、饒速日尊が配下を募り配置した今も残るその出自と足跡を立証する。
（定価：本体2000円＋税）
批評社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-36
鳳明ビル102A
TEL03-3813-6344 Fax03-3813-8990

自由社ブックレット2
理想の政教分離規定と憲法改正
四六判87頁／本体価格500円
杉原 誠四郎 著
憲法改正を見据えたとき、宗教に関する条項、規定は、真剣に考えねばならない問題である。
自由社
〒112-0005 東京都文京区水道2-6-3
Tel03-5981-9170 Fax03-5981-9171
http://www.jiyuusha.jp/

新刊！
人生の苦しみに積極的な意味はあるのか？
『21世紀に生きる日本人のための浄土思想』の出版を記念して、平成26年3月から28年11月までの5回にわたる講演をまとめた著者渾身の生命の書。
私の生命（いのち）の復活
上橋 泉 著
四六判296頁（本体1500円＋税）
日本人の宗教性（霊性）は回復するか？
株式会社 如月出版 販売部
〒152-0023 東京都目黒区八雲2-24-15
ラ リュミエール1F
TEL03-6657-9000 Fax03-6657-8999
http://www.kisaragibook.com

たま出版
www.tamabook.com
魔のJR中央線
自殺霊の撮影で判明したこと
齋藤 齋盛 著
十年の歳月をかけ、ついに自殺者の霊の撮影に成功。
霊能者が書いた自殺防止の書。死んでも痛みは残るもの、自殺者の言い分〝こんな苦では〟自殺をした状態で霊はさまよう、硫化水素自殺、政治家と自殺、自殺の多いJR中央線の謎を解く！
四六判158頁 定価1,365円（税込）
アシレス出版部発行
お近くの書店にない場合は下記へ 送料210円
〒229-0002 相模原市渕野辺本町2-17-14
TEL042(751)2558 FAX042(754)1818

山喜房佛書林
神野富一著 A五判 五八〇頁 本体一六、〇〇〇円
補陀洛信仰の研究
チベット・アジア各地の補陀洛信仰とその伝播ルート等の集大成
福田亮成編 B六判 二九〇頁 本体五、八〇〇円
弘法大師聖句集成
本書は大師の言葉が読者の心に直接届くよう工夫され、掲示伝道や寺報の種子に最適。
〒113-0033 東京都文京区本郷5-28-5
TEL:03-3811-5361 FAX:03-3815-5554